

真の希望は（創11：1-9）

創世記3章に書かれているように、「善悪の知識の木の実から取って食べると、神のようになる」と言ったサタンの誘惑により、罪を犯して神様を離れてから、人間には、生まれながら本能的に神様を拒否する本性があります。神のようになるという本性ゆえ、人間は、いくらでも可能性のある存在で、努力すれば必ず報われ、あきらめなければ、必ず良いことがあるという希望のフレーズを好みます。その反対の絶望のフレーズを語ると、無視され、たたかれてしまいます。旧約時代の預言者は、絶望のことばを語ったゆえに、いやがられ、迫害されました。代表的な人物にイザヤがいます。イザヤは安泰の状態だったイスラエルに向かって、バビロンによって滅ぼされると告げて、迫害されて、殉教しました。いまの世の中も同じです。信者である私たちは、神様がおられない希望はや夢は、実は幻にすぎず、悪魔による詐欺であることをよく覚えておくべきです。その証拠が、今日の聖書に出て来るバベルの塔です。



ノアの大洪水のあと、人が増えました。人が多くなるとパワーが出てきて、いろいろなことができるようになりました。人々はより良い生活を求めて、努力して、研究して、れんが、瀝青といった新しいものを開発していきました。そして、人間はすばらしいので、みんなが力を合わせようと、連合するようになりました。町を作って塔を建て、天の頂に届くようにしようと協力したのです。人ががんばって、良いところを磨いて行くと、理想世界、ユートピアができるという夢を持ったのです。それは、神様の恵みなど不要で、自分たちが神だという本性のあらわれです。それは、ほんとうの希望ではないので、神様はバベルの塔を壊されました。幻から目を覚ましなさいという、神様の愛の御声です。神様がおられない希望や夢は、詐欺にあっているようなもので、絶望に終わります。

偽りの父である悪魔は、人を殺すために、そのような甘い夢を見せます。悪魔は、空中の権威を握り、地球全体を詐欺に陥れているのです。研究、進歩が希望であるかのように惑わします。バベルの塔のできごとがあっても、人間の本性は変わらず、人の可能性に希望を託して、神様を拒否し続けています。最初のバベルの塔事件のあと、16世紀に産業革命が起き、ルネサンス時代がありました。そこで、発展し、変化することによって、神様などいらないと夢を見ていったのです。それが第二のバベルの塔事件です。その結果、第一次、第二次世界大戦が起きて、すべてが崩れてしまいました。しかし、人々の本性は変わることなく、いまは第三のバベルの塔運動が起きています。インターネットでひとつとなり、人工知能を開発しています。絶対というものをなくして、人間の内面を見て、内に「神」があるから、あなたがそれを見つけていこうと、人間と世界に可能性と希望があると語っています。現場を歩いて行くとき、当たり前にも語られることです。

そのような現場で、私たちは信者として「神様を離れた世の中には希望はない」と告白しましょう。世の神と言われる、空中の権威を持つ支配者、悪魔に支配され(エペソ 2:1)、生まれながら御怒りを受けるべき人間には、希望はありません。世の流れに流されるしかないのです。発展して、進歩しても、根本的なことはまったく変わらないので、希望にはなりません。キリストだけが自分と地球の希望だと、確認しましょう。女の子孫が蛇の頭を踏み砕く、そこにだけ希望があります(創世記 3:15)。新しく生まれ、新しく造り変えられるしか希望はないのです。

クリスチャンは、まず、自分と世界に絶望することが正常で祝福です。絶望することによって、偽物の希望に気づく目が開かれます。つらい経験をすることによって、本当の絶望を見せてくだ

さり、キリストしか希望はないと知るように導かれたのです。詐欺と幻にやられている現場で、まことの希望を照らす者であるという意識を持ちましょう。私はまことの希望を伝えるためにいると意識して、自覚するのがクリスチャンです。そして、まことの希望を思う存分、喜び味わいましょう。それがクリスチャンの特権です。死と罪の原理から解放されました。滅び、地獄からは縁が切れています。永遠のいのちが与えられ、神様がともにおられます。ここに希望があるのです。いつも変わらず神様がともにおられるので、喜んでいけばよいのです。そうすれば、弱さやいろいろなことがあっても、神様がすべてダメにならないようにしてくださいませ(ピリピ 1:6)。希望を味わいましょう。聖霊充満によって、状況、環境、条件に振り回されないで、イエスの証人となります。食べて飲むための人生ではなく、使命のための人生です。神様

の栄光を大いに喜び(ローマ5:2)、自分の人生に神様の栄光が現される希望があるので、すべてのことを譲り、敵のために祈るようになります。人生が終わると、天の御国に招き入れられる希望の中を生きます。まことの希望があるので、なにも怖れず、なにもうらやまず、問題にせず、引つかからずに、喜び味わうようになります。キリストこそが、希望であり、満足であり力です。それを味わっているなら、自分の可能性、希望が打ち砕かれた人が、失望して、まことの希望を求めてやっけてきます。それを期待しましょう。偽りの父にだまされている人々に、愛をもって伝える自分の姿をイメージして待ちましょう。地球はバベルの塔の詐欺で騒いでいます。その中で、わずかな人が召されて、祈りはじめています。イザヤ 60:1-5 を約束として祈りましょう。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

創世記 11：1-9 真の希望はどこに？

なるほど/人々は人生と世界には可能性がありだから希望があると信じ、希望の言葉を支持して絶望の言葉を嫌がるけど、その希望は崩れるしかないバベル塔の幻であり、最初から人類の希望はキリストしか約束されていないことを忘れてはいけない。ならば/信者は希望の幻に騙される現場に真の希望の灯台として立って、真の望みを味わい、その希望光を照らす最高の人生を期待しよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2019年1月27日)

1部礼拝： 霊的な目、肉体的な目 (民 14：1-10)

ヨシュア、カレブのように、いつでも神様の絶対計画、世界福音化の契約、すべての事柄の中で神様のみこころを発見する信仰の人、その列の中にいさせてくださり感謝します。霊的な目を開いてすべての過去の枠を完全に捨てて、神様が私とともにおられることを確実に体験しますように。今日この座で私だけができるただ、唯一性、再創造を見つけて、インマヌエルを味わいながら、最高の力を得ますように。来てもない未来について悩まずに、霊的な目を開いて、神様のみこころを成し遂げるワンネスを味わいますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2部礼拝： 一般信徒宣教の未来 (申 6：4-9)

次世代にできなかった伝道者訓練、指導者訓練、霊性訓練ができる一般信徒宣教の未来を知って次世代を育てるようにならして下さり感謝します。神様が願っておられることが何かを知って、次世代を立てるまことの宣教をしますように。もっとも急務な宣教が何かを知って、多民族、強大国を生かす指導者伝道訓練、次世代たちのための訓練を始めますように。今から237カ国の指導者、レムナント、RUTC訓練をするもっとも大きな宣教を言語別に始めて、幼いときに刻印、根、体質にしますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。